

# 医学部ポートフォリオを活用した臨床実習評価

## 1. 評価対象の能力・行動

学生が主治医の一員として診療に参加することにより明らかになる「医学部卒業時に修得しているべき能力・行動」を、7項目5段階で評価し、さらに総合的に達成度を評価します。評価は評価基準に基づき、絶対評価です。

医学部教育到達目標		臨床実習で実践し、修得が必要な行動、態度、習慣					
評価項目	1	2	3	4	5	対象外	
<b>1 責任ある行動、倫理的対応、医療安全</b> 医学生としての義務・責任を果たす 医療者として倫理・医療安全に配慮した行動をとる 2biii 2d 3cd	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>2 医学的知識：臨床推論、判断、病態・原理の理解</b> 患者診療の症例提示や質疑、カルテ記載において、医学的知識を活用し、状況をふまえた診断や治療計画立案を行う 1a 1b 1c 2bi	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>3 コミュニケーション・対人関係</b> 受け持ち患者の、医学、心理、社会的情報収集ができる 患者説明に必要な内容、方法を提示できる(模擬的にできる) 患者を尊重した態度を示し、患者との信頼関係を築く 2a 2bi 2biv	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>4 患者の身体診察</b> 全身状態、バイタルサイン、頭頸部・胸部・腹部・神経・四肢脊柱の診察を実施し、所見を適切に報告する 異常所見の有無、評価ができる 2bi	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>5 基本的臨床手技：検査手技、治療手技</b> 一般手技、外科手技、検査手技を実施する(医学生の必要レベル) 介助、適切な検体の取扱いを行う 2bii	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>6 チーム医療：チーム内での役割、多職種との連携</b> 診療やカンファレンスで指導医、上級医、同級生、医療職との連携を図り、医療チームの一員として役割を果たす 他の医療専門職の役割を理解、尊重した望ましい関係を築く 2c	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>7 自学自習、問題解決</b> 診療に参加して直面した問題に対し、主体的、自主的に学習して必要な知識、技能を得る 学習意欲、医学・医療への高い関心をもち、深く広く学ぶ 4a	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
8 フリー評価	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	<b>1(不可)</b>	<b>2(可)</b>	<b>3(良)</b>	<b>4(優)</b>	<b>5(秀)</b>		
総合評価	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	目標未達成	学生としての最低限ができる	医学生として望まれる行動を示す	優れた医学生の行動を示す	常にすぐれた行動を示し責任を果たす		

**臨床実習開始レベル**  
 臨床現場での行動が身につけていない医療者として不適切な行動がある

**合格：可**  
 基本的、必須の事項が実施できる  
 危険・不適切な行動はない

**合格：良**  
 基本的な診療を適切に実施できる  
 患者・チームと良好な関係を築く

**合格：優**  
 診療を適切に実施でき、判断にも問題がない  
 患者から信頼される  
 積極的に学ぶ

**合格：秀**  
 チームの一員として診療を推進し、信頼できる  
 幅広い興味を示し、積極的に学ぶ

## 1) 責任ある行動、倫理的対応、医療安全

	評価項目	1	2	3	4	5
1	責任ある行動、倫理的対応、医療安全 医学生としての義務・責任を果たす 医療者として倫理・医療安全に配慮した行動をとる 2biii 2d 3cd	<input type="checkbox"/> 欠席、遅刻 倫理、ルール、制度上の 問題行動	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし	<input type="checkbox"/> 医学生として望まれる行 動	<input type="checkbox"/> 医学生として優れた行動	<input type="checkbox"/> 医学生として非常に優れ た行動

### 関連する教育到達目標

- 2 基本的臨床能力を有し、患者中心のチーム医療を熱意と責任を持って安全に実践できる。
- 2b 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者ならびにその家族と良好な対人関係を築いて診療を行うことができる。
  - iii 診療録の記載と症例提示を実施し、医療情報を適切に取り扱うことができる。
- 2d 医療チームのメンバーと互いを尊重したコミュニケーションを図り、チームの機能を高めるためにリーダー及びメンバーとしての自分の役割を果たして、安全な医療を実践できる。
- 3 高い倫理観と社会性に基づいて、地域及び国際社会における自分の役割を認識することができる。
- 3c 医療資源の適切な分配をふまえた倫理的な最善の医療の選択ができる。
- 3d 個人、家族、地域、文化圏、国際社会における疾患と医療の多様性を理解し、最新の情報に基づく適切な対応ができる。

実習や参加すべき診療に、

評価 1：正当な理由のない欠席や遅刻、早退があった。正当な理由がある場合でも連絡等、必要な対応を怠った。(2/3 以上の出席要件に関わらず評価す)  
標準予防策、個人情報の取り扱い等、一般原則に従った行動が取れなかった。  
病院・病棟等でのルールに反する行動が見られた。

評価 2：欠席や遅刻、早退がない。正当な理由がある場合は連絡等、必要な対応を行った。  
標準予防策、個人情報の取り扱い、病院・病棟等でのルールに従って行動した。

評価 3：欠席や遅刻、早退がない。正当な理由がある場合は連絡等、必要な対応を速やかに行い、診療上の問題を最小限に抑えた。  
標準予防策、個人情報の取り扱い、医療安全移管する行動が習慣化されていた。

評価 4：診療チームの一員として常に責任ある行動をとった。不在時の診療にも責任を持つとする態度が見られた。  
倫理的課題や医療安全に対し、積極的に発言して、問題解決に参加した。

評価 5：診療チームの一員として患者診療の円滑な遂行に常に責任ある行動をとった。  
患者診療における倫理的課題に気づき、あるいは既に指摘されていた問題について、望ましい対応を積極的に検討し、チームの一員として対応した。  
医療安全上の問題にいち早く気づき、報告や適切な対応をとった。

## 2) 医学的知識：臨床推論、判断、病態・原理の理解

	評価項目	1	2	3	4	5
2	医学的知識：臨床推論、判断、病態・原理の理解 患者診療の症例提示や質疑、カルテ記載において、医学的知識を活用し、 状況をふまえた診断や治療計画立案を行う 1a 1b 1c 2bi	<input type="checkbox"/> 明らかな知識の不足	<input type="checkbox"/> 基本的知識がある 収集した情報を記載する	<input checked="" type="checkbox"/> 基本的症状、疾患の診断 と治療計画立案ができる	<input type="checkbox"/> 優れた症例提示 状況をふまえた診断と治 療計画立案ができる	<input type="checkbox"/> 状況を踏まえた診断と治 療計画立案、評価がで きる

### 関連する教育到達目標

- 1 医学、医療、それに関連する自然科学、人文・社会科学の知識を修得して、実践に応用することができる。
  - 1a.知識を実践に応用することができる。
  - 1b.学問大系、専門領域を超えて、幅広い知識を医学、医療に活用することができる。
  - 1c.必要とする最新の情報を収集し、適切に選択して利用することができる。
- 2 基本的臨床能力を有し、患者中心のチーム医療を熱意と責任を持って安全に実践できる。
  - 2b.基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者ならびにその家族と良好な対人関係を築いて診療を行うことができる。
    - i. 患者から情報収集を行い、データを解釈して頻度の高い疾患の診断を行い、診療方針を計画することができる。

受け持ち患者の症例提示、カルテ記載、記載内容に基づく討議において

評価 1：疾患と治療に関する基本的知識が欠けている。

症例提示やカルテ記載で求められる事項の記載ができない。

評価 2：疾患と診療に関する基本知識を用いて、症例提示とカルテ記載を実施できた。

問題の把握、診断と治療計画立案には、一部不十分な点がある。

評価 3：患者の症状、情報から病態の理解や診断ができ、検査・治療方針を立案して、症例提示やカルテ記載ができた。

評価 4：患者の症状、情報から病態の理解や診断が的確にでき、患者及び診療上の状況を踏まえて検査・治療方針を立案して、症例提示やカルテ記載ができた。

評価 5：専門領域にかかわらず、患者の症状、情報から病態の理解や診断が的確にでき、患者及び診療上の状況を踏まえて検査・治療方針を立案して、症例提示やカルテ記載ができた。

最新の情報を積極的に収集、活用して、患者診療の評価、改善に努めた。

### 3) コミュニケーション・対人関係

	評価項目	1	2	3	4	5
3	<b>コミュニケーション・対人関係</b> 受け持ち患者の、医学、心理、社会的情報収集ができる 患者説明に必要な内容、方法を提示できる(模擬的にできる) 患者を尊重した態度を示し、患者との信頼関係を築く 2a 2bi 2biv	<input type="checkbox"/> 情報収集不可 対人関係の問題 患者からのクレーム	<input type="checkbox"/> 必要な情報を収集できる 明らかな問題なし	<input type="checkbox"/> 患者との良好な 対人関係構築	<input checked="" type="checkbox"/> 診療の遂行に重要な情報を 収集する 患者を尊重し信頼を得る	<input type="checkbox"/> コミュニケーションで患者の 問題を積極的に解決 医療者として信頼される

#### 関連する教育到達目標

- 2 基本的臨床能力を有し、患者中心のチーム医療を熱意と責任を持って安全に実践できる。
- 2a. 常に利他的な態度を示し、心理社会背景を含む患者の抱える問題を包括的に理解して支援し、患者を尊重した医療の推進ができる。
- 2b. 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者ならびにその家族と良好な対人関係を築いて診療を行うことができる。
- i. 患者から情報収集を行い、データを解釈して頻度の高い疾患の診断を行い、診療方針を計画することができる。
- iv. インフォームドコンセントに基づく患者自らによる意思決定の支援と教育を行うことができる。

#### 受け持ち患者診療におけるコミュニケーション・対人関係において

評価 1：心理、社会的情報を含めた病歴聴取が不十分であった。

患者を尊重した態度が見られなかった。

患者からクレームを受けたり、指導医が明らかに不適切な行為を観察した。

評価 2：心理、社会的情報を含めた病歴聴取を実施できた。

患者を尊重し、利他的な態度を示して、対人関係に明らかな問題はなかった。

評価 3：心理、社会的情報を含めた病歴聴取を実施し、患者の抱える問題を支援しようとした。

常に患者を尊重し、利他的な態度を示して、患者との良好な関係を築いた。

評価 4：心理、社会背景を含む患者の抱える問題を包括的に理解して、診療の遂行に重要な情報を収集した。

インフォームドコンセントなど患者の意思決定の支援を行った。

常に利他的な態度を示して、患者を尊重した態度をとることにより、患者から信頼されていた。

評価 5：心理、社会背景を含む患者の抱える問題を包括的に理解して、診療の遂行に重要な情報を収集し、患者の支援に関わった。

患者の意思決定の支援や、行動変容を促す教育にも積極的に関わった。

常に利他的な態度を示して、患者を尊重した態度で患者を支援し、患者から医療者の一員として信頼されていた。

#### 4) 身体診察

	評価項目	1	2	3	4	5
4	<p><b>患者の身体診察</b></p> <p>全身状態、バイタルサイン、頭頸部・胸部・腹部・神経・四肢脊柱の診察を実施し、所見を適切に報告する 異常所見の有無、評価ができる 2bi</p>	<input type="checkbox"/> 診察実施不可	<input checked="" type="checkbox"/> 基本的診察を患者に実施できる	<input type="checkbox"/> 診察より正常、異常の区別、異常所見を把握できる	<input type="checkbox"/> 必要な診察を選択して実施し、所見の把握と病態の理解ができる	<input type="checkbox"/> 患者に配慮した診察を適切に実施し、正確な診断、報告できる

#### 関連する教育到達目標

- 2 基本的臨床能力を有し、患者中心のチーム医療を熱意と責任を持って安全に実践できる。
- 2b. 基本的診察手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者ならびにその家族と良好な対人関係を築いて診療を行うことができる。
- i. **患者から情報収集を行い、データを解釈して頻度の高い疾患の診断を行い、診療方針を計画することができる。**

#### 受け持ち患者診療において

評価 1：全身状態、バイタルサイン、頭頸部・胸部・腹部・神経・四肢脊柱の診察を実施できなかった。

評価 2：全身状態、バイタルサイン、頭頸部・胸部・腹部・神経・四肢脊柱の診察を実施できたが、所見の把握には不十分な点があった。

評価 3：全身状態、バイタルサイン、頭頸部・胸部・腹部・神経・四肢脊柱の診察を適切に実施し、正常、異常の区別、重要な異常所見の把握ができた。

評価 4：患者診療に必要な診察を選択し、適切に実施して、所見の把握と病態の理解ができた。

評価 5：患者診療に必要な診察を患者に配慮して適切に実施し、正確な所見と病態・鑑別診断を報告した。

## 5) 基本的臨床手技：検査手技、治療手技

	評価項目	1	2	3	4	5
5	<b>基本的臨床手技：検査手技、治療手技</b> 一般手技、外科手技、検査手技を実施する(医学生の必要レベル) 介助、適切な検体の取扱いを行う 2bii	<input type="checkbox"/> 手技実施不可 検体、物品、ゴミ廃棄等に問題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 基本的な手技を必要レベルでほぼ実施できる 明らかな問題なし	<input type="checkbox"/> 基本的な手技を必要レベルで実施できる 検査結果を判断できる	<input type="checkbox"/> 手技の適応、手続きを含む適切な実施ができる 適切な介助ができる	<input type="checkbox"/> 積極的に診療に参加して可能な手技を適切に実施し、貢献する

### 関連する教育到達目標

2 基本的臨床能力を有し、患者中心のチーム医療を熱意と責任を持って安全に実践できる。

2b. 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者ならびにその家族と良好な対人関係を築いて診療を行うことができる。

ii. **基本的検査・治療手技を実施することができる。**

『参考』医学教育モデル・コア・カリキュラム（臨床実習で求められる手技）

G-3-2)検査手技：尿検査、末梢血塗抹標本作成・観察、微生物検査（含 Gram 染色）、妊娠反応検査、血液型判定、視力・視野・聴力・平衡機能検査、12 誘導心電図、脳波検査記録、心臓・腹部超音波検査

G-3-3)外科手技：無菌操作、手洗い、ガウンテクニック、基本的縫合と抜糸、創の消毒・ガーゼ交換

G-3-4)救命処置：緊急性の判断、一次救命処置の実施、二次救命処置への参加

### 受け持ち患者診療において

評価 1：診療で必要とされた基本的検査・手技が実施できなかった。

検体、物品の取り扱い、ゴミ廃棄等に問題があった。

評価 2：診療で必要とされた基本的検査・手技がほぼ実施できた。

検体、物品の取り扱い、ゴミ廃棄等に明らかな問題はなかった。

評価 3：基本的検査・手技が診療で必要とされたレベルで実施できた。

検体、物品の取り扱い、ゴミ廃棄等に問題はなかった。

検査結果の判断ができた。

評価 4：診療で必要とされた基本的検査・手技の適応を判断でき、必要な準備をして実施できた。介助が許可される検査・手技についても、適切な対応を行った。

検体、物品の取り扱い、ゴミ廃棄等に問題はなかった。

検査結果の判断ができた。

評価 5：診療に積極的に参加し、許可を得て、学生に実施・介助が許可される検査・手技を適切に実施し、診療に貢献した。

6) チーム医療：チーム内での役割、多職種との連携

	評価項目	1	2	3	4	5
6	<p>チーム医療：チーム内での役割、多職種との連携</p> <p>診療やカンファレンスで指導医、上級医、同級生、医療職との連携を図り、医療チームの一員として役割を果たす</p> <p>他の医療専門職の役割を理解、尊重した望ましい関係を築く</p> <p>2c</p>	<input type="checkbox"/> コミュニケーションが取れない チームとして行動しない	<input checked="" type="checkbox"/> 必要なコミュニケーションができる	<input type="checkbox"/> 互いの役割を理解して行動する	<input type="checkbox"/> 診療の遂行に必要な連携を図る	<input type="checkbox"/> メンバーを支援し、チームの機能を高める メンバーとの望ましい関係

関連する教育到達目標

2 基本的臨床能力を有し、患者中心のチーム医療を熱意と責任を持って安全に実践できる。

2c. 医療チームのメンバーと互いを尊重したコミュニケーションを図り、チームの機能を高めるためにリーダー及びメンバーとしての自分の役割を果たして、安全な医療を実践できる。

受け持ち患者診療とカンファレンス等において

評価 1：情報提供や情報の共有を行わない。

診療チームの方針に従った行動を取らない。

多職種を含む診療チームメンバーの専門性を尊重する態度が見られない。

評価 2：主治医チームの一員として求められる状況提供を行い、情報の共有・意思決定に参加した。

多職種を含む診療チームメンバーの専門性を尊重する行動であった。

評価 3：主治医チームの一員として求められる役割を理解して、行動した。

多職種を含む診療チームメンバーの専門性を尊重する行動であった。

評価 4：指導医、上級医、同級生、他の医療職と連携し、診療の遂行に必要な役割を担った。

評価 5：診療チームにおける自分の役割を果たすだけでなく、他のメンバーを補完・支援し、チームの機能を高めた。

多職種を含む診療チームメンバーとコミュニケーションをとり、メンバーとして信頼された。

## 7) 自学自習、問題解決

	評価項目	1	2	3	4	5
7	<p>自学自習、問題解決</p> <p>診療に参加して直面した問題に対し、主体的、自主的に学習して必要な知識、技能を修得する</p> <p>学習意欲、医学・医療への高い関心をもち、深く広く学ぶ</p> <p>4a</p>	<input type="checkbox"/> 自主的に学習しない 学習意欲に欠ける	<input checked="" type="checkbox"/> 支援を受けながら知識技能を修得した	<input type="checkbox"/> 必要な知識技能を自主的に修得した	<input type="checkbox"/> 課題発見と適切な自己評価を行い、必要な知識技能を自主的に修得した	<input type="checkbox"/> 意欲的に関連事項を深く学び学習成果を挙げた最新の知識を修得した

### 関連する教育到達目標

4 基礎・臨床・社会医学における研究を体験し、研究の重要性と必要性を認識する。

4a. 課題を発見して、論理的、批判的に考え、探求し、問題解決する自己主導型学習を行うことができる。

受け持ち患者診療や臨床実習中に直面した問題（課題）に対して

評価 1：診療上必要な知識・技能について、指示や支援があっても学習しなかった。  
不明な点を学習しようとする態度がなかった。

評価 2：診療上必要な知識・技能について、指導医等の支援を受けながら、自習により知識・技能を修得した。

評価 3：診療上必要な知識・技能について、自らの課題として指導医等の支援を求め、自主的に知識・技能を修得した。

評価 4：診療上の課題を発見し、適切な自己評価により学習目標を定め、必要な知識・技能を自主的に学習して修得した。

評価 5：診療上求められる知識・技能に加え、関連事項を深く学び、意欲的に学んで成果を上げた。  
医学・医療への関心を示し、最新の情報を含め、新たな知識を修得した。



## 8) フリー評価

	評価項目	1	2	3	4	5
8	フリー評価	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 良	<input type="checkbox"/> 優	<input type="checkbox"/> 秀

- 1) ～7) 以外に、各ローテーションで評価する項目  
ローテーション開始時に学生に説明し、成績判定基準を示す。

## 総合評価

	1(不可)	2(可)	3(良)	4(優)	5(秀)
総合評価	<input type="checkbox"/> 目標未達成	<input checked="" type="checkbox"/> 学生としての最低限がで きる	<input type="checkbox"/> 医学生として望まれる行 動を示す	<input type="checkbox"/> 優れた医学生の行動を示 す	<input type="checkbox"/> 常にすぐれた行動を示し 責任を果たす

- 1) ～8) の項目を参考に、総合評価を行う。  
1) ～8) の評価の平均である必要はない。一部の項目に重大な問題がある場合は、1 (不可) となる場合もある。

## 2. 各ローテーションでの評価入力

### 1) グループ（ローテーション）の成績判定と診療科の形成的評価

鹿児島大学医学部・歯学部 e-ポートフォリオ

Top 担当授業科目 担当実習科目 助言指導学生 個人設定

### 臨床実習評価一覧

2016 年度 2016年度入学 医学科 4学年 臨床実習1（循環器・呼吸器）

※実習科目選択後は、絞り込みボタンをクリックしてください。  
※検索結果を絞り込む場合は、条件を設定後に絞り込みボタンをクリックしてください。

教員評価状態  全て  未実施  実施済み

グループ:

学籍番号:  氏名:

✓	2016年度入学	医学科	4学年	臨床実習1（循環器・呼吸器）
	2016年度入学	医学科	4学年	1臨床実習（心臓血管内科）
	2016年度入学	医学科	4学年	2臨床実習（呼吸器内科）
	2016年度入学	医学科	4学年	3臨床実習（心臓血管外科、消化器外科）
	2016年度入学	医学科	4学年	4臨床実習（呼吸器外科）



#### 臨床実習 1

グループ（ローテーション）の最終成績：ローテーション終了時に入力  
医学教務係が臨床実習の成績として記録する。

成績判定の権限を持つ指導医（臨床実習検討WG委員）が登録されている。

- 1 臨床実習（心臓血管内科）
- 2 臨床実習（呼吸器内科）
- 3 臨床実習（心臓血管外科、消化器外科）
- 4 臨床実習（呼吸器外科）

診療科の形成的評価：ローテーション中に担当診療科の指導医が入力する。  
あらかじめ登録された診療科の指導医がそれぞれの入力権限を持つ。

## 2) 学生の自己評価と指導医評価入力

- 学生の自己評価実施済みの場合

参照をクリック→学生入力済み画面 →「教員評価へ」クリック→教員入力画面

自己評価日	学籍番号	学習者氏名	実習開始日	実習終了日	グループ	教員評価	教員評価日	臨床実習	症例報告
2019/12/15			9/12/13	9/12/13	大学病院	未実施		<a href="#">参照 (グラフ)</a>	<a href="#">(症例報告)</a>
2019/12/15			9/12/13	9/12/13	鹿児島大学病院	実施済み	2019/12/16	<a href="#">参照 (グラフ)</a>	<a href="#">(症例報告)</a>

[教員評価へ](#)

### 臨床実習評価表(学生自己評価)

No 18

ローテーション名:

Group・実習施設:

実習期間: 2019/12/02 ~ 2019/12/13 欠席: 0 日 遅刻: 0 日

評価日: 2019/12/15

評価項目	1	2	3	4	5	対象外

- 学生の自己評価未実施の場合

作成をクリック→ 教員入力画面

自己評価日	学籍番号	学習者氏名	実習開始日	実習終了日	グループ	教員評価	教員評価日	臨床実習	症例報告
	20101002	医学生 テスト				未実施		<a href="#">作成 (グラフ)</a>	<a href="#">(症例報告)</a>

## 教員評価入力画面

[一覧に戻る](#) [保存する](#)

\* : 各評価項目の左側にあるチェックボックスは、学生による自己評価内容になります。  
 評価編集中に一覧に戻るボタン、前へボタン、次へボタン、学生自己評価へボタンをクリックした場合、編集中の内容は元に戻ります。  
 必要な編集内容は保存してください。

### 臨床実習評価表(教員)

10101002 : 医学生 テスト

No

ローテーション名:

Group・実習施設:

実習期間:  ~  欠席: 0 日 遅刻: 0 日

指導者氏名:  責任者氏名:

評価日:

評価項目	1	2	3	4	5	対象外
<b>1 責任ある行動、倫理的対応、医療安全</b> 医学生としての義務・責任を果たす 医療者として倫理・医療安全に配慮した行動をとる 2bii 2d 3cd	<input type="checkbox"/> 欠席、遅刻 *	<input type="checkbox"/> 問題なし *	<input type="checkbox"/> 医学生として望ま れる行動 *	<input type="checkbox"/> 医学生として優れ た行動 *	<input type="checkbox"/> 医学生として非常 に優れた行動 *	<input type="checkbox"/>
<b>2 医学的知識：臨床推論、判断、病態・原理の理解</b> 患者診療の症例提示や質疑、カルテ記載において、医学的知識を活用し、状況をふまえた診断や治療計画立案を行う 1a 1b 1c 2bi	<input type="checkbox"/> 明らかな知識の不 足 *	<input type="checkbox"/> 基本的知識がある 収集した情報を記 載する *	<input type="checkbox"/> 基本的症状、疾患 の診断と治療計画 立案ができる *	<input type="checkbox"/> 優れた症例提示 状況をふまえた診 断と治療計画立 案 *	<input type="checkbox"/> 状況を踏まえた診 断と治療計画立 案、評価ができる *	<input type="checkbox"/>

すべての項目の評価を入力、項目が評価対象外の場合は「対象外」をクリックする。

学生の自己評価を参照してコメントを記載する。指導医が入力すると学生の自己評価が入力できないので、あらかじめ自己評価を入力する期限を明示しておく。

「保存する」をクリックする。

学生一覧で「グラフ」をクリックすると、全診療科評価グラフとコメントを参照できる。